

総 説

イエス・キリストの医療福祉的行蹟

金 相 圭

川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科

(平成4年3月26日受理)

Jesus Christ's Medical Welfare Service

Sangkyu KIM

Department of Medical Social Work

Faculty of Medical Welfare

Kawasaki University of Medical Welfare

Kurashiki, 701-01, Japan

(Accepted Mar. 26, 1992)

Key words : love of humanity, respect for human life

Abstract

The purpose of this study is to appreciate Jesus Christ's love of humanity-respect for human life and human dignity-and re-examine its implications for social welfare service, so that it may become a guide for those who are preparing to do medical welfare work.

The words and deeds of Jesus Christ described in the four Gospels in the New Testament are the object of this study.

Jesus Christ arranged 32 medical services (sick persons, mental disorders, the handicapped, cuts etc.), and 17 social services (material aid and bringing back to life, instruction and counseling etc.)

要 約

本論文は、福音書を中心に、人命の重視と人間の尊厳性に基づくイエス・キリストの医療福祉的な言行を通して実践されたあわれみと愛を学び、再吟味し、医療福祉実践上の路程記とされることに目的がある。

イエスの医療領域（病人、精神障害、身体障害、負傷等の治癒）の事例は32、そして福祉領域（救貧と救命、教育と相談等）の事例は17にまとめられる。

1. 緒 論

キリスト教の聖典である聖書は、旧約聖書(39巻の小冊子の合本) Old Testament と新約聖書(27巻の小冊子の合本) New Testament とに大きく二分されるが、この区別と名称は2世紀になって初期の教会が福音書や書簡など、イエス・キリストによる“新しい契約”を啓示する書物の意味で“新約聖書”と呼び、ユダヤ教から継承した聖典をこれと区別して“古い契約”の意味で“旧約聖書”と呼ぶようになったことに由来する。

新約聖書の出発点はイエス・キリストである。イエスは義と愛による神の支配について人々に語り、正統的ユダヤ教の律法主義を批判した。イエスの死後弟子たちは、かなりの間記憶と想起によってイエスの言葉と業とを語りつつ伝道した。やがて信頼できる口伝が記述されるようになり、イエスの召命から死と復活に至るまでの言行を叙述する福音書が書かれた。

聖書はイエス・キリストに対する信仰によって救いに至る知恵を、人に与える書物であり、また聖書は、“すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益であり、それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にととのえられた者になるのである。”(テモテの第二の手紙3:15-17)と記されていることから、社会生活上も有益な書物とされる。

特に、福音書に記されているイエスのあわれみと愛に満ちた医療福祉的行蹟は、医療福祉関係者には学びに値する有益な内容のものとされる。

よって、この論文の意義と目的は、医療福祉的な言行を通して実践されたイエスのあわれみと愛を学び、再吟味し、なお悟りの糧とし、医療福祉事業の路程記にされることにある。この研究の方法と制限は、聖書を主とする文献研究とするが、特に新約聖書の四福音書の内容を中心に、イエスの直接的なものの範囲に制限する。

2. 四福音書の構成と内容

1. マタイによる福音書

イエスの語録資料とマルコによる福音書とを利用しつつ、さらにマタイ特有の伝承を付け加えることによって編集された文書である。内容は、誕生から宣教活動、受難を経て復活顕現に至るイエスの生涯を、マタイの視点に基づいて述べた書である。ここでは、旧約聖書からの引用の仕方に特徴がみられ、イエスは旧約聖書の預言を成就するものとして描かれている。さらに、そのイエスは同時に、教えを通して共同体を基礎づけるもの、教会の主でもある。記者マタイはイエスの直弟子である、いわゆる十二使徒の一人に数えられている使徒マタイとされているが、異説もある。執筆の時期と場所は、30~100年頃パレスチナとシリアの境界地域とするのが衆論となっている。マタイ書は、総28章1,070節で構成されている。

2. マルコによる福音書

現存する最古の福音書であり、内容は、洗礼者ヨハネの登場からイエスの活動、受難を経て、空の墓の発見に至る一連のできごとを、マルコの視点に基づいて述べた書である。

十字架と復活に至る以前のイエスの生を、奇跡物語を中心にして描くというところに特徴がある。記者マルコは、初代教会で活動したとされるエルサレム出身のユダヤ人とされているが、その確定のための資料が存在するわけではない。執筆の時期は、記事の内容から判断して、ユダヤ戦争の終わりに近い頃(70年より少し前)とし、場所はローマとされているが、これも推測にとどまる。マルコ書は総16章678節で構成されている。

3. ルカによる福音書

イエスの語録資料とマルコによる福音書とを利用しつつ、さらにルカ特有の伝承を付け加えることによって編集された文書である。

ここでは、できごとを順序正しく述べるという意味での歴史的関心と一種の弁証的意図に導かれて、誕生から昇天までのイエスの生涯が描かれている。その際、創造からイエスのできごとを経て終末に至る世界史を、神慮に基づく救

済史とみなす神学が、全体の枠組みを決定した。記者ルカは医者であり、パウロの伝導活動の協力者でもあったルカと同一視されてきたが、実際には紀元前80年～90年頃執筆されたこと以外は何もはっきりしていない。ルカ書は、総24章1,151節で構成されている。

4. ヨハネによる福音書

共観福音書（マタイ、マルコ、ルカの三書）と比較すると、用語、文体、内容などの点で大きな相異があることから「第四の福音書」とも呼ばれるこのヨハネ書の編集にあたって何らかの資料が利用されたとしても、その資料は、共観福音書の場合のものとはかなり異なった性格のものであったと思われる。ここでもイエスの現世での活動が描かれているが、叙述は全体としてグノーシス主義の影響を受けた独自の神学によって大幅に潤色されている。この記者をゼベタイの子ヨハネとする説は、後の伝承に由来し、史学的には支持されない。執筆の時期は共観福音書よりも遅く、一世紀末頃、場所は小アジアあるいはシリアとされている。ヨハネ書は、総21章879節で構成されている。

3. 医療領域の行蹟事例

治病に代表される医療領域の行蹟は、つぎの32事例が挙げられるが、さらにそれはつぎの4分野に分類される。

1. 病人

① 「イエスは、すべての町々村々を巡り歩いて、……あらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。」（マタイ9：35）

② 「イエスは……群衆をごらんになり、彼らを深くあわれんで、そのうちの病人たちをおいやしになった。」（マタイ14：14、ルカ9：11）

③ 「……イエスのところに病人をみな連れてこさせた。そして彼らにイエスの上着のふさにも、さわらせてやっていただきたいとお願ひした。そしてさわったものは皆いやされた。」（マタイ14：35—36、マルコ6：53—56）

④ 「夕暮れになると、……イエスはみことばをもって霊どもを追い出し、病人をことごとくおいやしになった。」（マタイ8：16、マルコ1：34、ルカ4：40）

⑤ 「……ただ少数の病人に手をおいていやされただけであった。」（マルコ6：5）

⑥ 「……百卒長は友だちを送ってイエスに言わせた、「……ただ、お言葉を下さい。そして、わたしの僕をなおして下さい」。……イエスはこれを聞いて非常に感心され、ついてきた群衆の方に振り向いて言われた、「あなたがたに言うておくが、これほどの信仰は、イスラエルの中でも見たことがない」。使にきた者たちが家に帰てみると、僕は元気になっていた。」（ルカ7：1—10、ヨハネ4：46—51）

⑦ 「……イエスはさまざまの病者と悪霊と悩む人々をいやし、また多くの盲人を見えるようにしておられたが、」（ルカ7：21）

⑧ 「……ベテスダと呼ばれる池があった。……そこに三十八年のあいだ、病気に悩んでいる人があった。……イエスは彼に言われた、「起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい」。すると、この人はすぐにいやされ床をとりあげて歩いて行った。」（ヨハネ5：2—9）

⑨ 「……イエスはペテロの……しゅうとめが熱病で、床についているのをごらんになった。そこで、その手にさわられると、熱病が引いた。」（マタイ8：14—15、マルコ1：30—31、ルカ4：38—39）

⑩ 「……十二年間も長血をわずらっている女が……イエスのうしろからみ衣のふさにさわった。み衣にさわらせれば、なおしていただけるだろうと……思っていたからである。イエスは……「娘よ、しっかりしなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです」。するとこの女はその時に、いやされた。」（マタイ9：20—22、マルコ5：25—29、ルカ8：43—44）

⑪ 「……水腫をわずらっている人が、みまえにいた。……そこでイエスはその人に手を置いていやしてやり……。」（ルカ14：1—4）

⑫ 「……ひとりのらい病人が……「主よ、みこころでしたら、きよめていただけるのですが」。イエスは手を伸ばして、彼にさわし、そうしてあげよう、きよくなれ」と言われた。すると、らい病人は直ちにきよめられた。」（マタイ8：1—3、マルコ1：40—42、ルカ5：12—13）

⑬ 「……十人のらい病人に出会われたが、彼

らは……声を張りあげて、「イエスさま、わたしたちをあわれんでください」と言った。イエスは彼らをごらんになって、「祭司たちのところへ行って、からだを見せなさい」と言われた。そして、行く途中で彼らはきよめられた。」(ルカ 17:11-14)

2. 精神障害

① 「夕暮になると、人々は悪霊につかれた者を大ぜい、みもとに連れてきたので、イエスはみ言葉を持って霊どもを追い出し、……。」(マタイ 8:16, マルコ 1:32-34, ルカ 4:35)

② 「……悪霊につかれたふたりの者が……イエスに願って言った、「もしわたしどもを追い出されるなら、あの豚の群れの中につかわして下さい」。そこで、イエスが「行け」と言われると、彼らは出て行って、豚の中へはいり込んだ。」(マタイ 8:28-32, マルコ 5:1-20, ルカ 8:26-35)

③ 「……カナアンの女が出て来て、「主よ、ダビデの子よ、わたしたちをあわれんでください。娘が悪霊にとりつかれて苦しんでいます」と言って叫びつづけた。……そこでイエスは答えて言われた、「女よ、あなたの信仰は見あげたものである。あなたの願いどおりになるように」。その時に、娘はいやされた。」(マタイ 15:22-28, マルコ 7:24-30)

④ 「……けがれた霊につかれたものが会堂にいて、叫んで言った、「ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんのかかわりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。……イエスはこれをしかって、「黙れ、この人から出て行け」と言われた。すると、けがれた霊は……その人から出て行った。」(マルコ 1:23-26, ルカ 4:33-35)

⑤ 「……ひとりの人が……言った、「主よ、わたしの子をあわれんでください。てんかんで苦しんでおります。……イエスがおしかりになると、悪霊はその子から出て行った。そして子はその時いやされた。」(マタイ 17:14-18, マルコ 9:17-27, ルカ 9:38-42)

3. 身体障害

(1) 盲人

① 「……ふたりの盲人が、「ダビデの子よ、わ

たしたちをあわれんで下さい」と叫びながら、イエスについてきた。そしてイエスが……彼らに「わたしにそれができると信じるか」と言われた。彼らは言った、「主よ、信じます」。そこで、イエスは彼らの目にさわって言われた、「あなたがたの信仰どおり、あなたがたの身になるように」。すると彼らの目が開かれた。」(マタイ 9:27-30)

② 「……ふたりの盲人が道ばたにすわっていたが、イエスがとおって行かれると聞いて、……主よ、ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」。イエスは……言われた、「わたしに何をしてほしいのか」。彼らは言った、「主よ、目をあけていただくことです」。イエスは深くあわれんで、彼らの目にさわられた。すると彼らは、たちまち見えるようになり、イエスに従って行った。」(マタイ 20:30-34, マルコ 10:46-52, ルカ 18:35-43)

③ 「そのとき宮の庭で、盲人や足なえがみもとにきたので、彼らをおいやしになった。」(マタイ 21:14)

④ 「……イエスはこの盲人の手をとって、村の外に連れ出し、その両方の目につばきをつけ、両手を彼に当てて、「何が見えるか」と尋ねられた。すると彼は顔をあげて言った、「人が見えます。木のように見えます。歩いているようです」。それから、イエスが再び目の上に両手を当てられると、盲人は見つめているうちに、なおってきて、すべてのものがはっきりと見えだした。」(マルコ 8:22-25)

⑤ 「……生れつきの盲人を見られた。……地につばきをし、そのつばきでどろをつくり、そのどろを盲人の目に塗って言われた、「シロアムの池に行って洗いなさい」。そこで彼らは行って洗った。そして見えるようになって、帰って行った。」(ヨハネ 9:1-7)

(2) おし

① 「……悪霊につかれたおしをイエスのところに連れてきた。すると、悪霊は追い出されて、おしが物を言うようになった。」(マタイ 9:32-33)

② 「……人々が悪霊につかれた盲人のおしを連れてきたので、イエスは彼をいやして、物を

言い、また目が見えるようにされた。」(マタイ12:22, ルカ11:14)

③ 「……群衆が、足なえ、不具者、盲人、おし、そのほか多くの人々を連れてきて、イエスの足もとに置いたので、彼らをおいやしになった。」(マタイ15:30—31)

④ 「イエスは……けがれた霊をしかって言われた、「おしとつんばの霊よ、わたしがおまえに命じる。この子から出て行け。二度と、はいつて来るな」。すると霊は叫び声をあげ、激しく引きつけさせて出て行った。」(マルコ9:25—27, マタイ17:18, ルカ9:42)

(3) 中 風

① 「……人々が中風の者を床の上に寝かせたままでもとに運んできた。イエスは彼らの信仰を見て、……中風の者にむかって、起きよ、床をとりあげて家に帰れ」と言われた。すると彼は起きあがり、家に帰って行った。」(マタイ9:1—7, マルコ2:1—12, ルカ5:17—26)

(4) 片手のなえ

① 「……片手のなえた人がいた。……イエスはその人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。そこで手を伸ばすと、ほかの手のように良くなった。」(マタイ12:9—13, マルコ3:1—5, ルカ6:6—10)

(5) 聞こえぬ耳

① 「……人々は、耳が聞こえず口のきけない人を、みもとに連れてきて、手を置いてやっていただきたいとお願いした。そこで、イエスは……その両耳に指をさし入れ、それから、つばきでその舌を潤し……その人に「エバタ」と言われた。……すると耳が開け、その舌のもつれもすぐ解けて、はっきりと話すようになった。」(マルコ7:32—35)

(6) 体の屈み

① 「……十八年間も病気の霊につかれ、かがんだままで、からだを伸ばすことの全くできない女がいた。イエスは……「女よ、あなたの病気はなおった」と言って、手をその上に置かれた。すると立ちどころに、そのからだがまっすぐになり、そして神をたたえはじめた。」(ルカ13:10—13)

表1 医療領域の実蹟

種 目 \ 数 次	実数	記録累計
1. 病 人	13	24
2. 精神障害	5	13
3. 身体障害—盲 人	2	6
—お し	4	7
—中 風	1	3
—片手のなえ	1	2
—聞こえぬ耳	1	1
—体の屈み	1	1
4. 負 傷	1	3
計	32	61

4. 負 傷

① 「……イエスのそばにいた人たちは、事のなりゆきを見て、「主よ、つるぎで切りつけてやりましょうかと言って、そのうちの一人が、祭祀長の僕を切りつけ、その右の耳を切り落した。イエスはこれに対して言われた、「それだけでやめなさい」。そして、その僕の耳に手を触れて、おいやしになった。」(ルカ22:47—51, マタイ26:47—56, マルコ14:43—47)

以上の事が医療領域の実蹟とされるが、数表にまとめると、(表1)の如く、その実数は32、その記録累計は61に及ぶものとなっている。

4. 福祉領域の行蹟事例

福祉領域の行蹟は、つぎの17事例が挙げられるが、さらにそれはつぎの2分野に分類される。

1. 救貧と救命

(1) 救 貧

① 「……イエスは……五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさいて弟子たちに渡された。弟子たちはそれを群衆に与えた。みんなの者は食べて満腹した。」(マタイ14:15—20, マルコ6:39—44, ルカ9:13—17, ヨハネ6:10—13)

② 「イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、「この群衆がかわいそうである。もう三日間もわたくしと一緒にいるのに、何も食べるものがない。しかし、彼らを空腹のままで帰らせたくはない。恐らく途中で弱り切ってしまうであろ

う」。……七つのパンと魚とを取り、感謝してこれをさき、弟子たちにわたされ、弟子たちはこれを群衆にわけた。一同のものは食べて満腹した。」(マタイ15:32-37, マルコ8:6-9)

③「イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれた。ぶどう酒がなくなったので、……イエスは彼らに「かめに水をいっぱい入れなさい」と言われたので、彼らは口のところまでいっぱいに入れた。そこで彼らに言われた。「さあ、くんで、料理がしらのところに持って行きなさい」。……料理がしらは、ぶどう酒になった水をなめてみたが、それがどこからきたのか知らなかった……。」(ヨハネ2:2-9)

(2) 救 命

①「イエスは会堂司の家に着き、……群衆を外へ出したのち、イエスは内へは行って、少女の手をお取りになると、少女は起きあがった。」(マタイ9:23-25, マルコ5:35-42, ルカ8:46-56)

②「……ナインという……町の門に近づかれると、ちょうど、あるやもめにとってひとりむすこであった者が死んだので、葬りに出すところであった。……主はこの婦人を見て深い同情を寄せられ、……そして近寄って棺に手をかけられると、かついでいる者が立ち止まったので、「若者よ、さあ、起きなさい」と言われた。すると、死人が起き上がって物を言い出した。」(ルカ7:11-14)

③「イエスはまた激しく感動して、墓にはいられた。……死んだラザロの姉妹マルタが言った、「主よ、もう臭くなっております。四日もたっていますから」。イエスは彼女に言われた、「もし信じるなら神の栄光を見るであろうと、あなたに言ったではないか」。……こう言いながら、大声で「ラザロよ、出てきなさい」と呼ばわれた。すると、死人は手足を布でまかれ、顔も顔おおいで包まれたまま、出てきた。」(ヨハネ11:38-44)

(3) 救 難

「イエスが舟に乗り込まれると、弟子たちも従った。すると突然、海上に激しい暴風が起って、舟は波にのまれそうになった。ところが、イエスは眠っておられた。そこで弟子たちは……

イエスを起し、「主よ、お助けください、わたしたちは死にそうです」と言った。するとイエスは彼らに言われた、「なぜこわがるのか、信仰の薄い者たちよ」。それから起きあがって、風と海とをおしかりになると、大なぎになった。」(マタイ8:23-26, マルコ4:35-39, ルカ8:22-24)

②「……弟子たちは、イエスが海の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと言っておじ惑い、恐怖のあまり叫び声をあげた。しかし、イエスはすぐに彼らに声をかけて、「しっかりするのだ、わたしである。恐れることはない」と言われた。するとペテロが答えて言った、「主よ、あなたでしたか。では、わたしに命じて、水の上を渡ってみもとに行かせて下さい」。イエスは、「おいでなさい」と言われたので、ペテロは舟からおり、水の上を歩いてイエスのところへ行った。しかし、風を見て恐しくなり、そしておぼれかけたので、……イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかまえて言われた、「信仰の薄いものよ、なぜ疑ったのか」。ふたりが舟に乗り込むと、風はやんでしまった。」(マタイ14:22-32, マルコ6:47-51, ヨハネ6:14-22)

2. 教育と相談

(1) 教 育

①「イエスはこの群衆を見て、山に登り、座につかれると、弟子たちもみもとに近寄ってきた。そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて言われた。……「あわれみ深い人たちは、さいわいである。彼らはあわれみを受けるであろう」。……」(マタイ5:1-10)

②「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。(マタイ7:12, ルカ6:31-32)

③「あなたがたの間でかしらになりたいと思うものは、僕とならねばならない。それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく仕えるためであり……自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである。」(マタイ20:2-28, マルコ10:45)

④「……イエスは身を起して彼らに言われた、「あなたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい」。……これを聞くと、彼ら

は年寄りから始めてひとりびとり出て行き、ついに、イエスだけになり、女は中にいたまま残された。……イエスは言われた、「わたしもあなたを罰しない、お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように」。㉞（ヨハネ 8：1—11）

⑤ “人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。㉞（ヨハネ 15：13）

⑥ “……それから水をたらいに入れて、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた。……主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたも互に足を洗い合うべきである。㉞（ヨハネ 13：2—14）

(2) 相 談

① もしもあなたの兄弟が罪を犯すなら、行って、彼とふたりだけのところで忠告しなさい。もし聞いてくれたら、あなたの兄弟を得たことになる。もし聞いてくれないなら、ほかにひとりふたりを、一緒に連れて行きなさい。……㉞（マタイ 18：15—17）

② “……ひとりの人がイエスに近寄ってきて言った、「先生、永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか」。……イエスは彼に言われた、「もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を賣り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。㉞（マタイ 19：16—21、マルコ 10：21、ルカ 18：22）

③ “ある律法学者が現れ、イエスに言った、「では、わたしの隣り人とはだれのことですか」。イエスが答えて言われた、……「……この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。彼が言った、「その人に慈悲深い行いをした人です」。そこでイエスは言われた、「あなたも行って同じようにしなさい」。㉞（ルカ 10：25—37）

④ “ひとりのサマリアの女が水をくみにきたので、イエスはこの女に、「水を飲ませて下さい」と言われた。……イエスはこの女に答えて言われた、「この水を飲む者はだれしも、またかわくであろう。しかしわたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わた

表 2 福祉領域の実蹟

種 目	数 次	実 数	記録累計
1. 救貧と救命—救貧		3	7
—救命		3	5
—救難		2	6
2. 教育と相談—教育		5	7
—相談		4	6
計		17	21

しが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」。㉞（ヨハネ 4：6—14）

以上の事が福祉領域の実蹟とされるが、数表にまとめると、（表 2）の如く、その実数は17、その記録累計は21に及ぶものとなっている。

5. 結 論

聖書・福音書を基礎にし、イエス・キリストの直接的な医療福祉的行蹟を主要内容とする本論文は

- I. 緒 論
- II. 四福音書の構成と内容
- III. 医療領域の行蹟事例
- IV. 福祉領域の行蹟事例
- V. 結 論

の全文五章から構成され、医療福祉領域の数字上の実蹟は、その実数の合計49件、記録累計は82回にまとめられる。勿論、聖書におけるその昔のイエス・キリストの直接的医療福祉的行蹟は、単なるあわれみと愛の実践にすぎず、学問的な方法とか、過程などは提示されていない。しかし、人命の重視、人間の尊厳性にむすびつくこれらの実践は、時代の流れとともに今日に至り、今日の医療福祉の理念の基となっている。これらの行蹟はこれからも大いに参考にされるべきと思われる。

最後に、この研究が目的とおり、医療福祉界の悟りの糧となり、また医療福祉事業上の路程記とされればとの願いを込めて、むすびにかえさせていただく。

参 考 文 献

- 1) 聖書全書 (1971) ソウル：大韓聖書公会.
- 2) 聖 書 (1979) 東京：日本聖書協会.
- 3) THE Holy Bible AUTHORIZED VERSION (1953) Oxford：OXFORD UNIVERSITY PRESS.
- 4) 新約聖書 共同訳 (1978) 東京：日本聖書協会.
- 5) 世界宗教大事典 (1991) 東京：平凡社.
- 6) 日本大百科全書 (1988) 東京：小学館.
- 7) 金 徳俊 (1985) 基督教社会福祉, ソウル：韓國基督教社会福祉学会.